

2023 年度 第 1 回拡大職員会議「学童保育所の生活のなかでの安全」

【クラブ】（つくしクラブ）

【名前】（石田 みゆき）

心にのこったことや気づいたことや学んだこと、今後の実践に活かしていきたいことなど、感想もふくめてお書きください（自由記述）。

学童保育所での子どもたちは、たいていはルールを守って過ごそうとしているのだと思いますが、ついつい走ってしまったり、うっかりハサミを床に置いたままにしてしまったり、自分の気持ちを言葉で上手く伝えることが出来なくて思わず友だちを叩いてしまったりといったことが起こります。そんな時、すぐに指導員が気付いて対応できれば何事もなく済んでいくかもしれませんが、走っている子が誰かとぶつかったり、誰かがハサミを踏んでケガをしたり、叩かれた子が叩き返してけんかに発展してしまう可能性もあります。それでもこういったことは日常的によくあることなので、指導員としても予測できずし、早めに対処できることが多いと思います。

しかし、思いも寄らない行動をとる子たちもいます。お迎えに来られたお母さんに「迎えが早過ぎる」と怒って水筒を投げたり、帰りの準備をするように言われた子が周りに人がいる場所なのに高い位置からランドセルや帽子を床に投げ落としたり、不意に一人で玄関から出て行ってしまったり。水筒はお母さんや近くにいた子に当たっていたらケガをしていたかもしれませんし、ランドセルも誰かの頭に当たってもおかしくない位置を通過して落ち、どちらもヒヤッしました。玄関から出てしまうのも本当に怖いです。道路へ出てしまうのももちろん危ないですが、夕方は保護者の車がバックで玄関前へ入って来るため、玄関を一步出るだけでも危険なのです。このようなことがあると、その都度注意したり声をかけたりしますが、1年生だと怒りの感情や外に出たいという衝動を抑えることがなかなか難しいようで、度々繰り返してしまう子もいます。特に、外へ出てしまう子については指導員全体でその子の行動を気にかけるようにするのですが、一人の指導員がその子にかかりきりにならざるを得なかったり、昨年度は激しく抵抗されて叩かれたり蹴られたり、指を噛まれたりするといったこともありました。こういった対処の仕方をすれば良いのか分からず試行錯誤しながら対応するしかないという感じですが、それでもその子と周りの子どもたちの安全確保が第一だと思いますので、指導員同士で協力し合いながら子どもたちを守っていけるようにしたいです。

研修の際に3つのシチュエーションでの危険予知について話し合いましたが、どんな場所でも危険な状況はたくさんあるのだなと痛感しました。学童保育所の中においても危険な箇所や状況は数多く存在すると思います。子どもたちの様子を見ながら予測を怠らないようにし、何かあった場合にはどのような対応をすれば良いのか日ごろから考えておかなければ、いざというときに間に合わないのではないかと感じました。